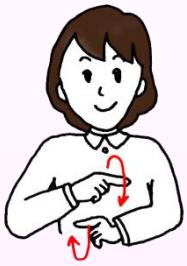
神奈川県
教育委員会

平成 28 年度県立高等学校・県立中等教育学校における



# 手話に関する取組事例集

高校教育課

平成 29 年 3 月

## はじめに

平成 27 年４月１日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、お互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務や県民、事業者の役割を明らかにし、並びに手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として手話の普及並びに、手話に関する教育及び学習の振興等を行い、手話を使用しやすい環境を整備すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう、努めることが求められています。

こうした状況を踏まえ、県教育委員会や各学校において、手話を身近なものとし、全ての生徒や教職員が手話に興味・関心を持ち、手話に対する理解を深める取組を充実させていく必要があります。

本事例集は、平成 28 年５月の「手話の取組強化月間」等を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成しました。

今後、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組を検討くださるようお願いいたします。

# もくじ

☆手話のあいさつ……１

☆授業での取組

１　百合丘高等学校　芸術・「音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」……２
２　横須賀大津高等学校　芸術・「音楽Ⅰ・Ⅱ」、「音楽実践」……２
３　大船高等学校　芸術・「音楽Ⅰ」……３
４　横須賀大津高等学校　保健体育・「保健」……３
５　秦野総合高等学校　福祉・「社会福祉基礎」……４
６　秦野曽屋高等学校　福祉・「社会福祉基礎」、「総合的な学習の時間」……５
７　大師高等学校　学校設定科目・「手話実習」……５
８　相模原総合高等学校　学校設定科目・「手話」……６
９　海老名高等学校　「総合的な学習の時間」……７
１０　磯子高等学校　「特別授業」、「総合的な学習の時間」……８

☆生徒会活動での取組

１　白山高等学校　緑の募金活動時……９
２　白山高等学校　実技講習会……９
３　横浜明朋高等学校　地域貢献活動……１０
４　津久井浜高等学校　代議員会、生徒総会……１１

☆学校行事での取組

１　平塚中等教育学校　手話講演会……１１
２　橋本高等学校　手話講習会、全校集会での生徒あいさつ……１２

☆掲示物の工夫

１　麻生高等学校　図書室への掲示……１３
２　厚木清南高等学校定時制　生徒案内用インフォメーション掲示板……１４

☆部活動の取組

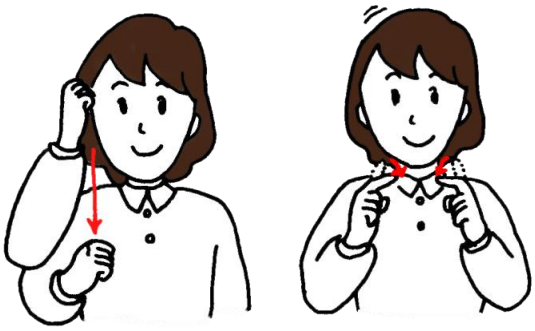
１　平塚商業高等学校　バレーボール部……１５
２　山北高等学校　卓球部……１６

☆その他

１　松陽高等学校　あいさつ運動……１６
２　横須賀工業高等学校　あいさつ運動……１７
３　足柄高等学校　全校集会、ショートホームルーム……１７
４　高浜高等学校　朝・帰りのショートホームルーム、授業の開始と終了時…１８
５　大和東高等学校　朝の登校時間、福祉委員会、昼休み等……１９
６　津久井高等学校　朝の職員打合せ……２０

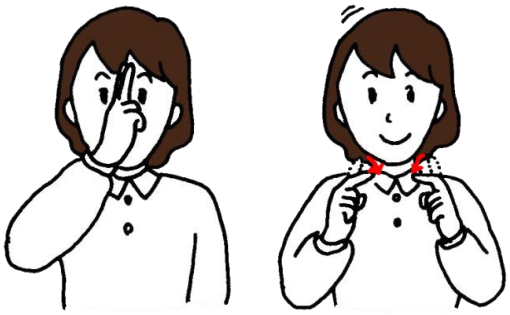
# 手話のあいさつ

## おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

## こんにちは

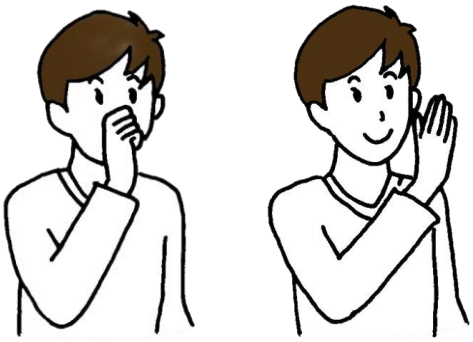


「昼」という手話（指で 12 時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

## ありがとう

左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

## よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前に出して、手を開き、前に少し出します。

## 授業 1　百合丘高等学校　芸術・「音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

単元（題材）目標：手話を用いて歌唱をすることにより、表現の幅が広がり、主体的・創造的演奏の工夫につなげる。

1　**実施回数**　計 14 回　2×7時間

2　**対象生徒**　音楽Ⅰ履修者 120 名・音楽Ⅱ履修者 122 名・音楽Ⅲ履修者４名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　芸術科（音楽）教諭

4　**実施内容**

歌唱及び異文化理解の授業の一環として、手話を用いて「翼をください」などを歌唱した。

5　**学習評価**（音楽への関心・意欲・態度）

・外国語の歌と同様に、手話も言語の一つとして関心を持ち、主体的に取り組んでいる。
・手話を用いることで表現の幅がどのように膨らむか、創造的な演奏の工夫につなげている。

6　**生徒の感想**

・手話を覚えられたら、あたかも演出的振り付けを行っているように感じる。
・手話が言語の一つと分かった。
・手話を覚えることが難しい。
・同じ歌詞でも何種類もの手話があることに驚いた。

7　**その他　＜成果・課題＞**

成果 生徒に、手話が言葉の一つであるという認識につながった。
課題 手話を学ぶために十分な時間を割くことが難しい。

## 授業 2　横須賀大津高等学校　芸術・「音楽Ⅰ・Ⅱ」、「音楽実践」

単元（題材）目標：手話を用いた斉唱をすることを通して、人とのコミュニケーションの大切さを再認識させる。

1　**実施回数**　各クラス４回　４時間

2　**対象生徒**　１・２・３年生の音楽選択者 248 名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　芸術科（音楽）教諭

4　**実施内容**

「Ｂｅｌｉｅｖｅ」（作詞・作曲：杉本竜一）の歌詞を手話で表現しながら斉唱する。

5　**学習評価**（音楽への関心・意欲・態度）

・手話に積極的に取り組み、覚えて歌おうとしている。

・手話が必要な意味を考え、人とコミュニケーションをとることの意義を自分なりに再認識している。

6　**生徒の感想**

手話を覚えることで人との世界が広がるのが素晴らしい。

7　**その他　＜成果・課題＞**

生徒は驚くほど熱心に取り組んでいた。心のバリアフリーも含め、取組を継続させたい。

## 授　業 3　大船高等学校　芸術・「音楽Ⅰ」

単元（題材）目標：手話を用いての斉唱や手話を学べる環境を整備することにより、手話に対する理解を深める。

1　**実施回数**　各クラス２回　10 時間

2　**対象生徒**　「音楽Ⅰ」選択者 167 名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　芸術科（音楽）教諭

4　**実施内容**

・「音楽Ⅰ」の授業で、手話ソングの理解と実技の習得（曲名は「Ｂｅｌｉｖｅ」等）を実施した。

・音楽系部活動部員により、校内発表会等において手話ソングを発表した。（平成 27 年度実施）

・図書室に「手話コーナー」を常設し、手話の本を誰もが手軽に借りることができる環境を整備した。

5　**学習評価**（音楽表現の創意工夫）

手話を用いながら歌うことで、表現の幅を広げる。

6　**生徒の感想**

速く手を動かすところは、うまくついていけず、自然と笑いが出て楽しい雰囲気になる。体を動かしながら曲に合わせて歌うのは楽しい。

7　**その他　＜成果・課題＞**

学校行事等での手話の更なる実演と、手話に対する生徒や教職員の理解を深めたい。

## 授　業 4　横須賀大津高等学校　保健体育・「保健」

単元（題材）目標：生徒の普段の生活に手話を用いて、あいさつをすることにより、手話に関心を持たせる。

1　**実施回数**　13 回　13 時間

2　**対象生徒**　１年生４クラス 159 名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　保健体育科教諭

4　**実施内容**

・授業の開始・終了時のあいさつ

・取組例

「おはようございます」「こんにちは」「よろしくお願いします」「ありがとうございました」

5　**学習評価**（関心・意欲・態度）

・手話に積極的に取り組み、身に付けようとしている。

・聴覚障害者とのコミュニケーションについて考え、自ら進んであいさつをしようとしている。

6　**生徒の感想**

手話に関心を持つ生徒が増えた。障害者への理解が進んだ。

7　**その他　＜成果・課題＞**

手話や聴覚障害者に対する理解が進んだ。

授　業
5

# 秦野総合高等学校　　福祉・「社会福祉基礎」

単元（題材）目標：社会福祉の理念と意義について学ぶ。

**1　実施回数**　３回

**2　対象生徒**　１年次（「社会福祉基礎」受講生徒 20 名）
２年次（「社会福祉基礎」受講生徒 12 名）

**3　指導者（教諭・外部講師等）**　秦野市聴覚障害者協会からの講師

**4　実施内容**

①聴覚障害者の生活を知ろう

自宅、電車の中で普段耳にしている音がないと困ることは何か？　また、それをどのように聴覚障害者は克服しているのか？

②聴覚障害者のコミュニケーション手段とは？

・聴覚障害者はろう者・中途失聴者・老人性難聴などの種類があるので、それに併せてコミュニケーション手段を選択しなければならない。

・手話だけでなく、読話、空書、指文字、ジェスチャーなど様々な訓練により、扱えるコミュニケーション手段もある。

・「猫かわいいですね。オスですか、メスですか。」などのテキストを聴覚障害者である先生にジェスチャーで伝える。

③自己紹介をしてみよう

・名前、住んでいる市町村、夢、趣味などを手話で話す方法を学び、全員の前で発表する。

**5　学習評価**

・手話での表現に積極的に取り組もうとしている。

・手話で簡単な表現や自己紹介ができる。

・聴覚障害者の生活を知り、聴覚障害について理解することができる。

**6　生徒の感想**

・何よりも大事なことは、伝えようとする気持ちである。「ここは危ない。」と伝えるときに危なそうな表情でないとまったく伝わらない。

・手話でなくとも空書でコミュニケーションが取れることに驚いた。聴覚障害者の方がそういう勉強をされていることを知った。

・使える手話を増やして、少しでも聴覚障害者の方が困っているときに役に立ちたい。

**7　その他　＜成果・課題＞**

・実際に聴覚障害者の方から、教えていただいたことは、生徒にとって非常に有効であった。

・手話に関しては、生徒に自ら調べ学習を行うなど、興味・関心を持たせることができた。

## 授業 6　秦野曽屋高等学校
## 福祉・「社会福祉基礎」、「総合的な学習の時間」

単元（題材）目標：　手話を通して聴覚障害についての理解を深める。

**1　実施回数**　４回

**2　対象生徒**　１年生（40 名）、２年生（39 名）、３年生（10 名）

**3　指導者（教諭・外部講師等）**　本校職員（福祉担当教諭）・秦野市聴覚障害者協会職員

**4　実施内容**

①３年選択科目「社会福祉基礎」の時間
- 手話を使ったコミュニケーション表現を、グループに分かれて生徒が発表する。
- 生徒間で互いに評価し合い、話合いをする中から課題を発見する。

②１、２年生「総合的な学習の時間」
- 生活の「音」の意味を話し合い、字幕や手話ニュースについて考える。
- 指文字やあいさつの手話を知り、習得する。

**5　学習評価**
- 聴覚障害者の方の話を聞いて、手話について「関心」を深める。
- 生活の中の「音」について深く考え、言葉なしで意志を伝えることの意味や難しさを理解する。

**6　生徒の感想**
- 手話を通して聴覚障害者ともっと会話をしてみたい。
- 手話の形は、分かりやすいものだった。
- 簡単なあいさつができるようになったので、もっとたくさん学びたい。

**7　その他　＜成果・課題＞**
- 手話によって、あいさつや簡単な自己紹介ができるようになった。
- 手話や聴覚障害の理解にかけられる限られた時間の中で、どのように深められるかが課題である。

## 授業 7　大師高等学校　学校設定科目・「手話実習」

単元（題材）目標：聴覚障害者のコミュニケーション手段の一つである手話を学び、聴覚障害者への理解を深めるとともに、コミュニケーションそのものを体験する。

**1　実施回数**　70 回

**2　対象生徒**　２、３年次生（40 名）

**3　指導者（教諭・外部講師等）**　本校職員・外部講師（非・NPO 法人　川崎市ろう者協会）

**4　実施内容**（手話表現）

①手話の基礎を学ぶ　②聴覚障害者との交流　③障害者との交流　④まとめ

**5　学習評価**

関心・意欲・態度・・・手話を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

思考・判断・表現・・・聴覚障害者の情報の保障について思考を深め、支援の仕方を工夫し、方法を考え、判断している。

技能・・・手話で相手に伝達できる。相手の手話を読み取る技術を身に付けている。

知識・理解・・・聴覚障害者の生活を知り、諸問題を理解している。

**6　生徒の感想**

聴覚障害者と手話によるコミュニケーションを取ることで、聴覚障害者の方のことを少しでも理解できたことに喜びを感じた。

**7　その他　＜成果・課題＞**

手話の勉強や聴覚障害者との交流を通して、聴覚障害者に対する理解が深まり、福祉に対する考えが一層深まった。

授業 8

# 相模原総合高等学校　　学校設定科目・「手話」

単元（題材）目標：聴覚障害に関する基礎的な知識を習得し、コミュニケーション技法の一つである手話の基礎技術を習得する。

1　**実施回数**　４回

2　**対象生徒**　２年次生　12 名・３年次生　43 名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　非常勤講師、本校教員

4　**実施内容**

一般財団法人全日本ろうあ連盟「今すぐはじめる手話テキスト　聴さんと学ぼう！」を活用して、手話の基本から、ろう者と交流するまでを学んだ。

【映像視聴】

盲ろう重複障害者の生活の様子を見た後、同障害を有する東京大学先端科学技術研究センター教授による盲ろう重複障害の特徴と、コミュニケーションの方法についての話を聞いた。

【触手話体験】

①ゴーグルを用いて白内障、白内障と視野狭窄の体験、さらに、ヘッドフォンを用いて、ろうとの重複障害の疑似体験を行った。

②その状態で、手話によるコミュニケーションの可能性と困難さを相互に体験し合った。

③全盲とろうとの重複障害の体験に進み、触手話によるコミュニケーションを生徒相互で試みた。

5　**学習評価**

関心・意欲・態度　関心を持って授業に臨み、積極的に取り組んでいる。

思考・判断・表現　聴覚障害への関わりについて積極的に考え表現する。

資料活用の技能　手話を活用して、表現・発表・会話ができる。

知識・理解　聴覚障害や手話に関する基礎的な知識を習得し、聴覚障害について理解している。

6　**生徒の感想**

聴覚障害者と手話でコミュニケーションが取れてたいへんよかった。手話を正確に使うこととともに伝えたいという気持ちも大変重要であることが分かった。

7　**その他　＜成果・課題＞**

実体験を通して、障害者理解が深まり、自己の在り方について振り返るよい機会を得ることができた。

触手話体験

授　業
9

# 海老名高等学校　「総合的な学習の時間」

単元（題材）目標：聴覚障害者のコミュニケーション手段の一つである手話を学び、聴覚障害者への理解を深めるとともに、コミュニケーションそのものを体験する。

**1　実施回数**　１回（２時間）

**2　対象生徒**　１学年（生徒 397 名）

**3　指導者（教諭・外部講師等）**　外部講師（手話通訳士）

**4　実施内容**

【第一部：講演会（前半１時間）】

・体育館で、海老名市聴覚障害者協会の方から、１学年生徒全体に向けて聴覚障害に関するお話をいただいた。

【第二部：手話体験（後半１時間）】

・各教室に戻り、学級委員を中心に手話のあいさつや指文字等の実践学習を行った。

・２週間前から担当教諭と各クラスの学級委員で、手話体験の企画・運営等の打合せを行い、それぞれのクラスにおいて生徒から生徒への手話体験が実現した。

**5　学習評価**

・コミュニケーションの方法の一つとしての手話に親しみを持ち活動している。

**6　生徒の感想**

・今回の講演会では、普段の生活の中で想像もつかなかった「聴覚障害者の悩みや不便さ」を知り、「相手に自分のメッセージを丁寧に伝えること」や「相手が発するメッセージに真摯に向かうこと」の大切さを学ぶことができた。

・非常に貴重で有意義な時間だった。

**7　その他　＜成果・課題＞**

昨年度、綾瀬西高校福祉教養コースの生徒及び講師に手話研修会を依頼し、一部の部活動生徒や教職員が手話に親しむ機会を設けることができた。その時に参加した教諭が中心となり企画した。各クラスの学級委員を中心に生徒同士の相互学習が実現したため、生徒が大きな充実感を得る機会となった。

講演会

手話体験

授　業
１０

# 磯子高等学校　「特別授業」、「総合的な学習の時間」

単元（題材）目標：聴覚障害者との交流を通して、障害者への理解を深めるとともに、手話の基本を学び、他者理解や共生の力を育む。

**1　実施回数**　５回（①４時間、②１時間）

**2　対象生徒**　①２年生（36 名）、②1 学年（生徒 317 名）

**3　指導者（教諭・外部講師等）**　外部講師　①磯子区社会福祉協議会コーディネーター・聴覚障害者福祉協議会・区内手話サークル手話通訳者

②平塚聾学校　教諭

**4　実施内容**

①2 年グローバルコミュニケーションコース　「特別授業」及び「総合的な学習の時間」

・事前学習２時間で【聞こえないこと】・【手話の基本】・【指文字】などについて学び、【聴覚障害者への質問事項】をグループワークで検討した。

・手話講座２時間では、聴覚障害者と手話通訳者８名により、聞こえない生活についての話、手話の必要性や聴者の心がける点について話を聞いた。

・５～６人のグループに別れ、指文字や手話を手話通訳者の方たちから教えてもらい実践した。

②１年「総合的な学習の時間」

【聞こえないということ】について、講演を聞き、実際に補聴器を利用する等の体験を行った。

③全クラスに特別授業の報告、簡単な手話、指文字についての紹介を掲示した。

**5　学習評価**

・手話の意義や方法に関心を持ち、手話に係る活動に積極的に取り組むことができる。

・手話で表現できる。

・障害に関する知識を習得し、手話の必要性や聴覚障害について理解している。

**6　生徒の感想**

手話は思ったより簡単で、何とか気持ちが伝わるのだと思った。障害を持っていても皆さん夢に向かって努力していて、明るくて感動した。一番聞きたい音が、自分の子どもの声や両親の声と聞いて、辛かった。

**7　その他　＜成果・課題＞**

ほとんどの生徒が、手話に興味を持ち、積極的に会話をしようと努力できた。短時間では多くを身に付けることはできないので、継続して学習する場面を持てるよう工夫が必要である。

## 生徒会活動1　白山高等学校　緑の募金活動時

テーマ（活動の目的）：全校生徒が手話に触れ、身近に感じる機会を設け、手話に対する興味・関心を高める。

1　**実施回数**　３回（６月）

2　**対象生徒**　生徒会本部役員・スタッフ、ボランティア委員、登校途中の生徒

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　生徒支援グループ教職員

4　**実施内容**

生徒昇降口で緑の募金活動を実施する際、生徒会本部役員生徒が手話で、あいさつをしたり、手話で募金を呼びかけたりするなど、全校生徒へ手話の普及に向けた取組を行なった。

5　**生徒の感想**

日頃、手話であいさつはしないので照れくさかった。

6　**その他　＜成果・課題＞**

手話の普及に向けて、今年度 11 月～12 月頃に、ボランティア委員を中心に全校生徒にも有志参加を促して、手話の実技講習会を企画したい。（P.9　生徒会活動２）

## 生徒会活動2　白山高等学校　実技講習会

テーマ（活動の目的）：実際にコミュニケーションの手段として手話に触れることにより、手話は言語であることを再認識するとともに聴覚障害についての理解を深める。

1　**実施回数**　１回（11 月）

2　**対象生徒**　ボランティア委員及び有志生徒（18 名）

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　外部講師（２名）

ハートフルパワー株式会社＜手話で日本を楽しくするタレント事務所＞代表取締役社長及び聴覚障害者（2 歳で聴覚を失い、手話普及の活動を展開されている方）

4　**実施内容**

ボランティア委員会及び全校生徒に対して有志参加を呼びかけ、手話研修会として実施した。

5　**生徒の感想**

日常会話の手話をその成り立ちから分かりやすく教えていただいた。手話の表現が体操の演技力・表現力にも参考になると感じた。（体操競技部生徒）

6　**その他　＜成果・課題＞**

当日の放課後が他の行事と重なっていたこともあって、参加生徒数が少なかった。次に機会があれば、月間行事予定の検討段階で生徒が参加しやすい日程を組む必要がある。

生徒会活動 3

# 横浜明朋高等学校　地域貢献活動

テーマ（目的）：ボランティア活動を通して地域の方と触れ合う中で、手話も言葉の一つであることを生徒自身が実感し、コミュニケーションのツールとして身近に感じる。また、地域の方への手話の普及の一環も担う。

1　**実施時期**　練習４回・本番２回

2　**対象生徒**　図書委員・生徒会役員・有志生徒　28 名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　学校運営グループ（図書館司書）・外部講師（元社会福祉法人職員）・生徒活動支援グループ・地域連携グループ

4　**実施内容**

本校に隣接する団地の自治会における敬老会、子ども会のプログラムの一環として、前述の生徒たちが手話を使って合唱を行った。

5　**生徒の感想**

楽しかった。今回は、手話で会話をするというよりダンスのように披露するに留まったが、機会があったら実際に手話を使ったコミュニケーションを取ってみたいと思いました。

6　**その他　＜成果・課題＞**

成果・・・生徒が興味を持ち、勉強をしたいと思った。

課題・・・授業外の活動で講師を継続して確保することが難しい。

手話を用いた合唱

## 生徒会活動 4　津久井浜高等学校　　代議員会、生徒総会

テーマ（目的）：生徒会役員や代議員自らが講師となり、生徒同士で手話に触れる機会を設けることで、全校生徒が手話に触れる機会を持つ。

1　**実施時期**　４回

2　**対象生徒**　全校生徒

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　生徒会役員、代議員

4　**実施内容**

手話のＣＤや教育委員会作成の動画コンテンツ、手話教材等を活用し、生徒会役員と各クラス代議員が講師となって、生徒総会で全校生徒に向けて簡単なあいさつ等を学習した。また、部長会においても生徒会役員が中心となって学習し、部活動での活用を呼びかけた。

5　**生徒の感想**

思ったより簡単なので覚えやすかった。機会があれば使ってみたい。

6　**その他　＜成果・課題＞**

簡単なあいさつを生徒同士で行う様子が見られた。クラスや部活動での活用機会が作れない。

## 学校行事 1　平塚中等教育学校　　手話講演会

テーマ（目的）：福祉委員の生徒が中心となって、講習会や交流会を開催することによって、全校生徒が手話に触れる機会を持つ。

1　**実施時期**　１回

2　**対象生徒**　福祉委員の生徒

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　平塚市聴覚障害者協会講師等

4　**実施内容**

・文化祭の企画として、福祉委員の生徒が手話講習会を行った。
・平塚ろう学校との交流会を行った。

5　**生徒の感想**

・伝言ゲームをやって、伝える側、聞く側の工夫で協力できたことがうれしかったです。
・手話で会話していたら、ろう学校の生徒さんと同じ趣味を持っていることが分かった。話が合って楽しかった。
・言いたいことがうまく表せなくて残念・・・　もっと手話を勉強したい。
・４年後のオリンピック、パラリンピックでボランティアをやりたいと思っているので、とてもよい経験になりました。
・はじめはとても緊張していましたが、手話を間違えても理解してくれたりするので、できるだけ声をかけてみたいです。
・友達も誘って交流会に参加しました。とても充実した交流会になったので、友達から「誘ってくれてありがとう」と言われました。

6　**その他　＜成果・課題＞**

・手話講習会や平塚ろう学校との交流は、毎年行われており生徒にも好評である。
・学校行事との関係で、手話の取組強化月間に実施することが難しい。

学校行事 2

# 橋本高等学校　手話講習会、全校集会での生徒あいさつ

テーマ（活動の目的）：講習会を通して、参加者に手話に興味・関心を持たせるとともに、簡単な会話の習得を目ざす。さらに全校生徒の前で、習得した代表生徒が手話を用いて挨拶することにより、全校生徒が手話に触れ、興味・関心を広げる。

1　**実施回数**　２回

2　**対象生徒**　手話講習会：福祉委員全員・生徒希望者（計 23 名）

体育祭予行：全校生徒

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　相模原養護学校橋本分教室教諭

4　**実施内容**（手話講習会）

あいさつ・自己紹介

・近くの人同士でコミュニケーションを取る。

趣味について

・内容を手話で表現する。担当教員が巡回し、分からない場合には聞く。

伝言ゲーム

・代表者が前に出て与えられた題について手話で表現する。

・手話が分からなければ、ジェスチャーで表現する。

・見ている側は何を表現しているのかを当てる。

（体育祭予行の挨拶）

・実行委員長がはじめに、「皆さん、こんにちは。体育祭実行委員長の〇〇〇〇です。今日は皆で体育祭を盛り上げていきましょう。」と手話であいさつを行った。

5　**生徒の感想**

・手話はすごく難しいものだと思っていたが、実際に学んでみると自分でも意外とできた。

・これから手話を使う機会があるかもしれないので、これを機にもっと手話を学ぼうと思う。

6　**その他**　**＜成果・課題＞**

成果・・・手話を学び実践することで、手話に関心を持ち、理解を深めることができた。

課題・・・自主的に参加した生徒が少なかったので、来年度以降、対策を考えたい。

手話講習会

掲示物
1

# 麻生高等学校　　図書室への掲示

テーマ（目的）：手話に関する教材を活用して、ホスピタリティ・マインドを育む。

1　**実施回数**　２回

2　**対象生徒**　全生徒　907 名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　各クラス担任

4　**実施内容**

・各クラス担任が、ホームルームの時間を使って、手話の掲示物を紹介した。

・期間中は、休み時間などを利用して、生徒が手話の掲示物を見て練習するよう指導した。

・図書室と連携し、手話に関する文献・書籍・漫画などをまとめた特設ブースを設置した。

5　**生徒の感想**

・手話に関して今まではほとんど知識がなかったが、漫画だと興味を持ちやすく楽しく学べるのでよい。

6　**その他　＜成果・課題＞**

成果・・・「手話通信」の発行をしてからすぐに、生徒が手話であいさつをする様子を見かけることができた。

課題・・・取組期間が過ぎると手話であいさつする様子が見られなくなったので、生徒の関心を継続させる工夫が必要である。

手話のブース

手話の資料

掲示物
2

# 厚木清南高等学校定時制
# 生徒案内用インフォメーション掲示板

テーマ（目的）：手話に関する教材を活用して、手話への関心を深める。

1　**実施回数**　ショートホームルーム（Com.T）５回　、　投影は４月 25 日～５月 31 日

2　**対象生徒**　全生徒　466 名（定時制）

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　クラス担任

4　**実施内容**

・手話に関するショートホームルーム用短時間教材を自主作成し、活用した。

・校内の生徒案内用インフォメーション掲示板に指文字一覧を投影（写真は例として「せいなん」）した。

指文字の投影の様子

「せ い な ん」と投影

5　**生徒の感想**

・手話に興味を持った。これを機会にもっと知っていきたい。手話を覚えるきっかけとなった。

・手話に方言があるというのが意外だった。手話は顔の表情も含めて読み取ると分かった。

・手話を覚えるのは大変だけど、コミュニケーションをするためには必要だと思った。

・手話を単語として覚えるのではなく、文章で使えるようになりたい。

・耳の不自由な方はこんな難しい方法で会話をしていることが分かった。

・正確に覚えたい。他の手話もたくさん覚えたい。

6　**その他　＜成果・課題＞**

成果・・・生徒はおおむね前向きに手話に取り組み、ショートホームルームが手話を知るきっかけとなり、その必要性も理解することができた。プリントの説明だけでは分からない部分に関しては、実際に手の動きを見ながら、実践することができたので、生徒の興味関心を引き出せた。

課題・・・聴覚障害に対する理解が不十分だと思われる感想が見られた。

部活動
1

# 平塚商業高等学校　バレーボール部

テーマ（活動の目的）：聴者と聴覚障害者が合同チームで同じコートに立ち、同じ目的を達成するために、互いに手話を用いて理解を深める。

**1　実施回数**　ほぼ週５日（８月以降）

**2　対象生徒**　バレーボール部員　５名

**3　指導者（教諭・外部講師等）**　バレーボール部顧問

**4　実施内容**

平塚ろう学校と平塚商業高校との合同チームによる部活動

**5　生徒の感想**

試合・練習を通じて、お互いのコミュニケーションが取れるようになった。

**6　その他　＜成果・課題＞**

はじめの頃は、ジェスチャーや筆談等を用いて、意志疎通を図ろうした。秋季大会で地区シード権を獲得した頃から平塚商業高校の選手が積極的に手話を学ぼうとするようになった。合同での活動中は、平塚商業高校の選手は、ろう学校顧問の手話を見よう見まねで少しずつ覚えていった。

平塚商業高校顧問は、高浜高校在職中（平成２年～平成 10 年）福祉教養コースの福祉演習を担当し、初級の手話はできるため、単独で活動する時は、コートの中で使用する基本的な手話の指導を行った。

平塚商業高校の選手は、平塚商業高校の顧問が手話で、ろう学校の選手と会話しているのを見て、更に手話を理解しようとした。現在は、試合中に選手間で手話で会話ができるようになってきている。

**平成 28 年 12 月 10 日～11 日**
**伊豆の国市とまとカップ大会**
**第5位入賞**

**※写真は、ろう学校の生徒3人、**
**平塚商業の生徒5人。**

## 部活動 2　山北高等学校　卓球部

テーマ（活動の目的）：活動を通して、聴覚障害についての理解を深め、聴覚障害者と触れ合い、コミュニケーション能力を高める。

1　**実施回数**　年１回

2　**対象生徒**　卓球部　８名

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　卓球部顧問

4　**実施内容**

平塚ろう学校との練習試合

5　**生徒の感想**

障害のあるなしに関わらず、普通の練習試合と同じように実施できた。

6　**その他　＜成果・課題＞**

ろう学校の生徒であってもコミュニケーションを取る気持ちがあれば、気にすることなく一緒に過ごすことができることを生徒が認識できた。

## その他 1　松陽高等学校　あいさつ運動

テーマ（活動の目的）：活動を通して、聴覚障害についての理解を深め、手話をより身近なものとする。

1　**実施回数**　年８回

2　**対象生徒**　全校生徒

3　**指導者**　福祉委員会（36 名）、生徒会執行部（７名）、部活動生徒（155 名）

4　**実施内容**

ショートホームルーム等を利用し、福祉委員から手話を紹介し、通学時間帯に校門や昇降口付近で手話を用いて「おはようございます。」と声をかけながらあいさつ運動を行った。

5　**生徒の感想**

初めは恥ずかしかったが、だんだんとできるようになり、これからも続けたほうがよいと思った。手話で返してくれる人がいて嬉しかった。普段できない体験ができてよかった。もっと手話を広めたいと思う。

6　**その他　＜成果・課題＞**

・手話で返してくれる等、一部の生徒には浸透している実感はあったが全体までは広がらなかった。
・福祉委員からの呼びかけだけでなく全校生徒への伝達方法の工夫（全校集会等で手話をやってみる等）が課題である。

## その他 2　横須賀工業高等学校　　あいさつ運動

テーマ（活動の目的）：あいさつ運動を兼ねて高校の取組を県民に理解してもらうとともに、手話も言葉の一つであることを生徒自身に実感させる。また、地域の方への手話の普及の一環を担う。

1　**実施時期**　月１回

2　**対象生徒**　生徒会役員、部活動部員及び近隣の小中学生

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　生徒会担当の教諭、部活動顧問

4　**実施内容**

生徒会役員及び月ごとに決められた部活動部員が月１回、近隣の小学校で行っている小中高合同の朝のあいさつ運動で、登校する児童に対し、「おはよう」と手話で示しながら声かけを行った。

5　**生徒の感想**

・児童から大きな声であいさつが返ってきて嬉しかった。
・手話であいさつすると、児童から不思議そうに見られることもあって悩むことがあった。

6　**その他　＜成果・課題＞**

・高校生の元気なあいさつにびっくりしてしまう小学生がいたので、小学校の協力も不可欠である。
・今後は小中学生にも手話によるあいさつを広めていきたい。

## その他 3　足柄高等学校　　全校集会、ショートホームルーム

テーマ（目的）：生徒が親しみやすい音楽を題材として手話に触れる機会を設けるとともに、クラス単位での取組によって全校生徒が手話に触れる機会を持つ。

1　**実施時期**　２回

2　**対象生徒**　全校生徒

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　教員７名

4　**実施内容**

全校集会で音楽を１曲流し、その歌詞を教員７名が手話を使って生徒に披露した。また、朝のショートホームルームで校長及び教職員が各クラスを回り、手話でのあいさつや簡単な会話を伝え、生徒の学習の場を作った。

5　**生徒の感想**

初めて手話に触れ、身近に感じることができた。新たなコミュニケーションツールとして体験できたことはとてもよかった。

6　**その他　＜成果・課題＞**

朝の職員打合せでも実践しているため、生徒だけでなく教職員も手話に対して慣れてきた。

その他
4

# 高浜高等学校
## 朝・帰りのショートホームルーム、授業の開始と終了時

テーマ（活動の目的）：今年度の目標を「授業や学校で使える手話を学ぼう」とし、授業やＨＲの始まりや終わりに手話コミュニケーション部が作成したプリントを活用し、全校生徒が手話に触れ、親しみを持つ機会を設ける。

**1　実施回数**　　通年

**2　対象生徒**　　全校生徒

**3　指導者（教諭・外部講師等）**　手話コミュニケーション部・部活動顧問（ろう者）
ボランティア担当職員

**4　実施内容**

・手話コミュニケーション部、ろう者の部活動顧問でイラスト付きのプリントを作成した。このプリントを活用して全教職員と全校生徒が授業やホームルームの始まりや終わりに手話を使える機会を増やした。また、総合的な学習の時間や学年集会で実施する等、様々な場面で手話に触れる活動を行った。
・夏休みに手話コミュニケーション部が PTA の方々を対象に手話講座を行った。また、美術部と連携し、手話を知るための校内表示を作成した。（「た か は ま」の指文字を絵で表し、福祉体験教室のポスターに使用し、周知に活用した。）
・本校を会場として全国手話検定を実施した。
（対象：本校生徒、実施日：平成 28 年 12 月 13 日）

**5　生徒の感想**

・学校や教科に関わる身近な手話単語を、イラストを見ながら覚えることができた。
・プリントを作成するにあたって、手話の語源やつくりについて振り返るよい機会になった。
・学校にろう者の先生がいらっしゃるので、あいさつなどができるようになれるといいと思った。

**6　その他　＜成果・課題＞**

・手話を身近なものとして捉えることができるよい機会になった。
・手話を学んでいる部活動の生徒にとっても、プリントを作成することで、手話を学び直すよい機会となった。
・教職員によって手話の技術に差が当たるため、なかなか実施をすることが難しい場合もある。教職員研修の場が必要だと考える。

イラスト付きの手話プリント

た か は ま の指文字ポスター

その他
5

# 大和東高等学校　朝の登校時間、福祉委員会、昼休み等

テーマ（活動の目的）：全校生徒が手話に触れる機会を設け、興味を持たせる。

1　**実施回数**　あいさつ運動３回・手話講座２回

2　**対象生徒**　全校生徒、生徒会役員、福祉委員

3　**指導者（教諭・外部講師等）**　生徒会担当教諭、生徒会役員、福祉委員

4　**実施内容**

あいさつ運動

・生徒会役員、福祉委員が昇降口に立ち、朝の登校時に手話を交えてあいさつを行った。

手話講座

・福祉委員会で簡単なあいさつや、“やまとひがし高校”を指文字や手話で紹介するなどの手話講座を行った（計２回）。

手話のあいさつポスター掲示

・福祉委員が手話（あいさつの動作）ポスターを各クラスに掲示した。

手話に関する本、漫画ブースの設置

・図書室前に特設ブースを設置した。

5　**生徒の感想**

生徒会より

・あいさつ運動をすることによって教室で話題になっていたり、「図書室に寄ったよ！」と言ってくれたり興味を持ってくれているようで嬉しかった。また、自分たちも勉強になった。

手話講座より

・手話の形が動作に関連していて、それぞれ意味があることを始めて知った。

6　**その他　＜成果・課題＞**

・手話であいさつをしたり、図書室で本を閲覧している姿を見たり、教室で話題にしていたことを聞くと手話に興味を持ってもらうという目標は達成できたと思う。

・本格的に手話を学ぶには、ボランティアの方に指導していただくことも必要であり、定期的に活動を行うことに意味がある。

手話コーナーを設置

手話を用いたあいさつ運動

その他
6

# 津久井高等学校　　朝の職員打合せ

テーマ（目的）：教職員が手話言語に興味関心を持つことに重点を置き、生徒への手話言語普及の第１歩とする。

**１　実施時期**　15 回

**２　対象生徒**　なし（教職員対象）

**３　指導者（教諭・外部講師等）**　福祉科教諭

**４　実施内容**

5～6 月に 4 週間かけて手話の強化月間を実施した。週に１枚、基礎的な手話を６つほど図説したプリントを配付し、福祉科教職員が順番に講師を務め、朝の打合せで１日一つの手話を学んだ。週の最終日には一つひとつの手話を組み合わせて文章を完成するなどして復習も行った。

**５　その他　＜成果・課題＞**

教職員が興味関心を持つことで、あいさつを手話で行ったり、授業やホームルーム等で生徒に紹介したりすることができた。今後は生徒への普及にも力を入れたい。

印　　刷　　平成29年３月29日
発　　行　　平成29年３月29日
編　集　者　　神奈川県教育委員会教育局指導部
高校教育課長　　岡野　親
発　行　者　　神奈川県教育委員会
〒231-8509　横浜市中区日本大通33
TEL　(045)210-1111　内線8258～66